

創造都市の到達点と 今後の課題

日時 2020 2/19 水 15:00~17:30
(開場 14:30)

場所 同志社大学
今出川キャンパス
良心館103番(RY103)教室

お申込み方法

入場無料

事前申込制

締切:2020年2月17日(月)

お申し込みは下記 URL よりご確認ください

URL : <https://forms.gle/3QP4ZvVut8u4Lu9A8>



QRコードは
こちらから
▲

創造都市という新たな都市概念が提起されて以来 4 半世紀が経過し、ユネスコがそのグローバルネットワークを提唱してから16年、文化庁が国内で支援を開始してから13年が経ち、創造都市ネットワーク日本は全国 114 自治体（99市町村、15 府県）に発展してきました。

このたび、2017 年より開始した文化庁同志社大学共同研究プロジェクト「文化芸術創造都市に係わる評価と今後のあり方に関する研究」のまとめに向けて総括シンポジウムを開催する運びとなりました。

全国で創造都市政策を推進する行政担当者、国際芸術祭やアートプロジェクトを推進する芸術家、文化活動に関心ある市民の皆さんの参加を呼びかけます。

SCHEDULE

- ◇開会挨拶 八木匡 氏 (同志社大学経済学部教授)
- ◇記念講演 創造都市の現段階と今後の方向
佐々木雅幸 氏 (文化庁地域文化創生本部主任研究官/創造都市ネットワーク日本顧問/同志社大学経済学部客員教授)
- ◇基調報告 創造都市の評価指標構築に向けて ~「創造県おおいた」の取り組みを踏まえて~
三浦宏樹 氏 (公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団参与)
- ◇事例発表 横浜市・京都市・高松市・鶴岡市等
- ◇コメンテーター 太下義之 氏 (文化政策研究者/独立行政法人国立美術館 理事)
杉浦幹男 氏 (アーツカウンシル新潟/アーツカウンシルみやざき プログラムディレクター)
吉本光宏 氏 (株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事)
綿江彰禅 氏 (一般社団法人芸術と創造 代表理事)
- ◇閉会挨拶 三木忠一 氏 (文化庁地域文化創生本部事務局長)

▶ お問い合わせ先

同志社大学 創造経済研究センター事務局

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL:075-251-3728 FAX:075-251-3727
E-mail: rc-csce@mail.doshisha.ac.jp

主催：文化庁地域文化創生本部/同志社大学 創造経済研究センター
共催：同志社大学 ライフリスク研究センター
協力：創造都市ネットワーク日本
後援：京都府/京都市

創造都市の到達点と今後の課題

PROFILE

佐々木 雅幸



文化庁地域文化創生本部主任研究官/
創造都市ネットワーク日本顧問/
同志社大学経済学部客員教授

金沢大学経済学部、立命館大学政策科学部、大阪市立大学大学院創造都市研究科で教授を経て、2014年4月から2017年3月までは文化庁文化芸術創造都市振興室長を務める。創造都市ネットワーク日本の顧問として、国内の様々な創造都市の取組を支援。主な著書に「創造都市の経済学」、「創造都市への挑戦」など。

三浦 宏樹



公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団 参与/
大分経済同友会 調査部長

1965年東京都生まれ。1988年日本開発銀行（現・日本政策投資銀行）入行。経済企画庁出向、政策金融評価部、四国支店企画調査課長、日本経済研究所出向、大分事務所長などを経て現職。近著に『アートの創造性が地域をひらく「創造県おおいた」の先進的戦略』（日本政策投資銀行編、ダイヤモンド社刊）。

太下 義之



文化政策研究者/
独立行政法人国立美術館理事

博士（芸術学）、公益社団法人日展理事、公益財団法人静岡県舞台芸術センター評議員、日本博アドバイザー。観光庁「世界に誇れる広域観光周遊ルート検討委員会」委員。東京芸術文化評議会委員、2025年万博アカデミック・アンバサダー、オリンピック・パラリンピック文化プログラム静岡県推進委員会副委員長、あいちトリエンナーレのあり方検証委員会委員、新潟アーツカウンシル・アドバイザー。豊島区「東アジア文化都市2019 実行委員会」委員、鶴岡市食文化創造都市アドバイザー。著書：『アーツカウンシル』（水曜社）。

杉浦 幹男



アーツカウンシル新潟/
アーツカウンシルみやぎ
プログラムディレクター

1970年、東京都生まれ。東京藝術大学美術学部卒業。大阪市立大学大学院創造都市研究科修了。三菱UFJリサーチ & コンサルティング主任研究員、沖縄県産業振興公社、沖縄版アーツカウンシル プログラムディレクターなどを経て、現職。実践女子大学非常勤講師。

吉本 光宏



© Jouji Suzuki

株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事

1958年徳島県生。文化施設開発やアート計画のコンサルティング、文化政策、創造都市、五輪文化プログラム等の調査研究に取り組む。現在、東京2020組織委員会文化・教育委員、東京芸術文化評議会評議員、（公財）企業メセナ協議会理事、主な著作に『アート戦略都市—EU・日本のクリエイティブシティ』（監修）等。

綿江 彰禪



一般社団法人芸術と創造 代表理事

2006年名古屋大学大学院経済学研究科修了、2006年（株）野村総合研究所入社 コンサルティング事業本部、2014年慶應義塾大学大学院文学研究科修了、2016年（株）野村総合研究所退職・独立。現在、一般社団法人芸術と創造 代表理事。政府や地方自治体を対象とした文化政策・産業政策及び文化団体の運営に関するコンサルティングを行う。
<http://www.pac.asia/watae.html>